

## 平成 24 年度 市政アンケートモニター調査反映状況

	調査名（実施課）	反 映 状 況
1	南アルプスユネスコエコパーク について （清流の都創造課）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アルプス・井川地域の魅力について 100 人中 86 人が「自然との触れ合い」と回答され、体験してみたいエコツーリズムでは、5 割以上の人が「井川古道・里山歩き」と回答されたことから、ユネスコエコパークの啓発と南アルプス・井川地域の魅力を紹介するパンフレットを作成するにあたり、自然散策コースや井川の歴史文化に関する情報を多く盛り込み、制度の普及と南アルプス・井川地域への交流人口の増加に向けて取り組んでいる。</li> <li>・今回のアンケート結果を参考にしながら、引き続きユネスコエコパークの普及啓発を図り、南アルプス・井川地域の環境保全と地域資源の活用を促進するための各種事業を実施していく。</li> </ul>
2	買物環境について （商業労政課）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市商業振興審議会において、静岡市良好な商業環境の形成に関する指針の目安となる物販面積の設定を審議する際に、アンケート結果である「大型商業施設の出店希望が 56%見られ、その立地は幹線道路沿線や拠点性を有するところを望んでいること」「近隣で買物ができる場所がなくなると困るとの回答が 90%」であることを踏まえ、商業施設の適切な配置について、検討素材として活用した。</li> </ul>
3	ノラ猫対策について （動物指導センター）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域猫活動への参加について、「地域でやると決まれば何らかの形で参加できる」の回答が 33%あったことから、自治会等の課題として取り扱うことが重要と判断した。そこで、パイロット事業を構築し、市内の 2 町内会で地域猫活動が実施され、市では地域猫活動に対して町内会との調整、捕獲ゲージの貸し出し、チラシの作成等を支援した。</li> <li>・アンケート調査結果を分析のうえ、駿河区のグランシップで開催した第 49 回静岡県公衆衛生研究会において、「人と猫が穏やかに暮らすための街づくりを目指した施策の検討」について、研究成果を発表した。</li> <li>・飼い主のいない猫を不妊手術後に元の場所に戻す活動（TNR 活動）について、多くは肯定的であったが、一方では糞やゴミ荒らし等の問題解決にはならないとの回答が 29%あったことから、頭数が減少するまでの対応策が必要であることがわかった。そこで、アンケート調査の結果を生かし、市民の意識啓発として、動物の愛護と管理の両立を目指す「人と猫が穏やかに暮らすためのガイドライン」を作成した。</li> <li>・調査結果から、TNR 活動や地域猫活動について知らない人が多いこと、また、TNR 活動等について、チラシ、看板、インターネットなどを積極的に活用すべきとの意見もあったことから、市民に対して広く周知することが急務であると示唆された。そこで、ガイドライン（概要版）2,000 部及び猫の適正飼養のパンフレット 4,000 部を作成し、必要に応じて、市民へ配布している。また、ガイドラインの内容については、市ホームページに掲載し、市民に公開している。</li> <li>・地域猫活動を推進することで、82%の方が「住民の意識の変化、仕組み、人間関係において地域に良い変化が期待できる」と回答した。猫の問題を地域の課題とすることで、住民の意識や人間関係に変化が生まれ、改善状況も認識できるため、苦情数の減少につながることを期待される。そこで、人と猫が穏やかに暮らすためのガイドラインについて、自治会に理解を得るため、葵区及び清水区の自治会連合会の定例会等で</li> </ul>

		<p>自治会の役員に説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と猫が穏やかに暮らすためのガイドラインについて、自治会に理解を得るため、駿河区の自治会連合会の理事会で、自治会の役員に説明する予定である。</li> </ul>
4	<p>児童虐待防止について (児童相談所)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待の4種類の認知度は80%以上と高かったが、虐待通報者への配慮についての認知度は42.9%と低く、通報に関し周知が十分されているとは言えないことから、関係機関へ早期発見の重要性の周知を進めるとともに、市民に対して通報等についての理解を深めていただけるような啓発方法を検討していく。また、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであることの認知度が18.4%と低かったことから、オレンジリボンについての啓発も広く行っていく。</li> </ul>
5	<p>新東名開通効果の把握について (道路計画課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答結果では「新東名開通による効果や期待を感じた」と回答した方は約90%と非常に多かった。主として「遠距離移動におけるアクセス向上」の回答割合が約47%、「事故発生時、異常気象時、災害発生時の防災機能の向上」の回答割合が約46%とそれぞれ多く見受けられ、その効果は交通のみならず観光や地域振興にも大きな影響を与えるものだと感じた。今回の結果を含め、新東名の開通効果について広報するため、整備効果に関する具体的な事例等の調査を行い、新東名開通後一年間の整備効果をHPで公開、また静岡庁舎や駿河区役所でパネルによる展示を実施している。</li> <li>・新東名高速道路の各ICへのアクセス道路整備について、今回のアンケートを通して初めて知ったという方が多く、想定していた以上に道路整備に対する認知度の低さが明らかになった。今後、道路事業を市民の皆さんにより理解していただき、また推進していくために、HP等の広報媒体の内容充実等を図り、道路事業の必要性やその効果などを、分かりやすく広報していく。</li> <li>・多くの方が新東名開通後に他の幹線道路の交通渋滞が緩和されたと実感していたが、少数ではあるが交通渋滞が悪化したと感じられた方もいた。現在、国、県、市、警察等の関係機関から構成される「静岡県道路交通渋滞対策推進協議会」において、市内における渋滞箇所の解消するための対策について検討しており、今後頂いた意見を参考に効果的な渋滞対策の推進を図っていく。</li> </ul>
6	<p>食育の推進について (健康づくり推進課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の推進に関し、市が重視していくべきことについて、「食の楽しさを実感したり、食への関心を深めることによる共食の推進」への回答が最も高かった。平成25年3月に策定した第2次静岡市食育推進計画では、これらの調査結果(共食の推進や家族、世代間、地域等の交流によって食を楽しむなど)を食育を推進していくための具体的な施策として掲げた。また、栄養業務施策に活用してもらうよう関連各課の栄養士に調査結果と分析結果を送付した。</li> </ul>